

災害支援

市長レポート

～福島県相馬市へ新米を～

相馬市の現状 —放射線が阻む復興—

「米原市のみなさんからの度重なるご支援をありがとうございます」と、佐藤憲男副市長から市民のみなさんへのメッセージをお預かりした後、震災後7か月が経過した相馬市の現状について説明を受けました。

市民が目に見えない放射線に対して冷静に対応できるよう、説明会や講演会をこまめに開催して情報提供を行う一方で、除染活動を進めて安心感を与えようとするものの、除去した土砂の仮置き場の問題が難しいと佐藤副市長は語っておられました。

また、魚はとれても流通が停滞しがちなため漁師の方が操業を自粛しているほか、水田は塩害やセシウムの沈澱に



**10月13日に相馬市役所を訪問。
新米50俵・震災孤児育英基金の目録などをお届けし、
現在の復興状況についての説明を受け、
意見交換を行いました。**

写真は佐藤副市長と福島市役所にて。当日は新米と震災孤児支援金の目録のほか、米原市ゴルフ協会からお預かりしたチャリティーゴルフ大会のチャリティー金、ルッチ大学院4期生と市民有志のみなさんが制作されたハートマークビューイング(被災地のことを思う気持ちをハートマークに込めたもの)のパッチワークをお渡ししました。

さらなる絆の深まりを —支援と情報共有で—

より、耕作ができるまでにはまだ相当の時間が必要とのことです。

放射線が市民生活や地元産業に与える影響の大きさを改めて受け止めてきました。

東日本大震災での実体験をぜひとも米原市民のみなさんにも伝えてほしいとお願いしたところ、立谷秀清相馬市長にご講演いただくことについて快諾を得てきました。講演会は来年の夏ごろに開催する予定です。相馬市の災害対応に関する「生の声」を少しでも多くの市民のみなさんと共有し、その教訓を米原市の防災につなげたいと考えています。

そして、こういった災害支援と情報共有をお互いに進める中で、相馬市と米原市の絆がさらに深まっていくことを願っています。引き続き、市民のみなさんのご協力をお願いいたします。

米原市長 泉 峰一

(10月15日記)

これまでの相馬市への独自支援

- 第1弾 第1次支援物資搬送 (4月4日～4月5日)
白米 (5.6 t)、布団類、飲料水、カップラーメン、缶詰など
- 第2弾 第2次支援物資搬送 (4月27日～4月29日)
炊飯器 (100台)、布団 (100組)、生活雑貨
- 第3弾 ボランティア派遣 (5月27日～5月29日)
24人 (写真洗浄作業、ハウス泥上げ、物資搬入など)
- 第4弾 震災孤児等への義援金受付 (6月24日～9月30日)
- 第5弾 目録贈呈 (10月13日)
新米50俵、震災孤児支援金1,027,059円

市議会や関係機関、各種団体からの支援の輪も広がりました。

東日本大震災義援金

米原市内での受付(9月30日現在)

44,216,114円

義援金の受付期間を平成24年3月末日まで延長します。募金箱を市役所各庁舎および社会福祉協議会に設置していますので、引き続きみなさんのご協力をお願いします。

健康福祉部 福祉支援局 (山梨庁舎)

☎ 55-8110 FAX 55-8130